

# 「私はどこしえに神の家に生きる」

詩編 23章1節～6節



兄弟姉妹の皆さま

12月に入りました。皆様お変わりありませんか。待降節に生きる私たちは主の降誕の喜びに満たされ、温かい心で主を熱心に待ち望んでいることと思います。

12月には聖フランシスコ・ザビエル司祭・聖アンブロジオ司教教会博士をはじめ、無原罪の聖マリア、聖ルチアおとめ殉教者、十字架の聖ヨハネ司祭教会博士、聖ステファノ殉教者、聖ヨハネ使徒福音記者、幼子殉教者、聖家族の記念日や祝日があります。

詩編23章1節～6節に基づいてクリスマスを迎える準備の支えとして共に黙想していきたいと思えます。

「クリスマスわが家で」このはやり歌からもわかるように私たちは休日と言えば家庭の安らぎを連想します。今年のクリスマスは家にいられなくとも、電飾をつるしたり、プレゼントを包んだり、クリスマスツリーの飾りつけをしたり、食卓を囲んだりした過去のわくわくした時をおそらく思い出すでしょう。しかし待降節とは神の永遠の家に集うことがどれほど素晴らしいかをチムドンドンしながら待つ時でもある、と考えたことがありますか。

待降節に聞く聖書朗読には、このテーマに集点を当てている箇所がたくさんあります。なぜでしょう。それは、イエスがクリスマスにお生まれになることを私たちが楽しみにしているように、教会は、栄光の内に再び来られ、私たちを天国に迎え入れてくださるその日のことを、私たちにじっくり考えるよう招いているからです。

イエスは、ご自分の誕生を通して御父が準備してくださる永遠の食卓を囲むようにと私たちを招いてくださるのです。私たちが日常生活を送っている間にも、ご自分の永遠の住み家を準備され、一人も残らずに、一人ひとりと呼び寄せ、同じ神の子という次元としてだれでも永遠の食卓を囲んで、永遠の食事を味わうように招かれているのです。

このような家に迎え入れられるのを望まない人がいるのでしょうか。これこそが、私たちの主イエス・キリストの家に住むため、準備を整えるときに起こることです。ですから、喜んでください！この待降節に私たちがクリスマスのために自分の家を準備するときには、救い主イエス・キリストがご自分の家に私たちの場所を用意してくださっています。

今月の聖人らと共に次の祈りを唱えましょう。

「命の源である天の父よ、私たちをあなたの家に招いてくださり、感謝いたします。」

また、今年の待降節を歩みながら、皆さんの心に三位一体が住まわれるように綺麗にしましょう。

2022年12月

カトリック上野毛教会 主任司祭  
ペトルス・ウィリー・ソバ・ドイ O.C.D.